

社会連携講座「次世代ものづくりアーキテクチャ」設立シンポジウム開催報告

2022年7月15日

社会連携講座「次世代ものづくりアーキテクチャ」では、2022年6月20日（月）に東京大学伊藤謝恩ホールおよびオンラインによるハイブリッド形式にて、社会連携講座設立シンポジウムを開催しました。

本社会連携講座に携わる東京大学の担当研究者およびダイキン工業の関係者担当者を除いて、合計191名の方に参加いただきました。ダイキン工業様以外の企業様、研究機関、経産省様、メディア関係など多岐にわたる業種専門性の方々に参加をいただくことができました。

本社会連携講座では、持続可能社会の実現に貢献し、将来にわたって高付加価値型の製造業をもたらす「次世代ものづくりアーキテクチャ」の構築を目指します。第一年目の活動として、複雑に絡み合って変化する諸課題を整理し、本社会連携講座で取り組む課題を明らかにするため、社会連携講座白書2021「次世代ものづくりアーキテクチャに向けて」を取りまとめました。

本シンポジウムでは、本社会連携講座の設立主旨、社会連携講座白書2021の内容を紹介し、目指している方向性について問題提起させていただき、東京大学人工物工学研究センター研究者陣に加え、ダイキン工業からも講演を行いました。その後、聴衆・参加者からの質問も受けながら、総合討議を行いました。総合討議での主な議論題目を以下に紹介します。

- ・デジタルトリプレットとヒトの位置づけの理解について
- ・デジタルトリプレット導入の期待効果について
- ・自動化とヒトが担う企業の強みについて
- ・ものづくりアーキテクチャ構築へ向けた課題について
- ・ものづくり技術の研究対象としての“空調機器”の特徴について

事後のアンケートでは、回答者の約9割が「極めて満足」「満足」と回答いただきました。満足度の理由として、「本社会連携講座の全体像が良く理解できた」、「ものづくりを進化させるために、人しかできない部分不可欠になることが分かった」、「ものづくりにおける人の議論が活発に行われており、非常に良かった」等のご意見をいただきました。一方、「各講演時間が短く、駆け足だった」とのご意見もあり、今後のシンポジウム運営に生かしていきたいと考えます。

また、本シンポジウムについて、「一つの企業でスポンサーされた社会連携講座で、オープンな議論の場を設けていただき、他社に所属する者からの質問に対して貴重なご発言をいただいたことに、東京大学工学研究科様とダイキン工業様の双方の社会全体への寄与への意識を感じ、感銘を受けました。」とのご意見をいただきました。

